

平成 30 年 1 月 29 日改訂（平成 28 年 5 月 2 日公表）

# 子供の自己肯定感や道徳心は保護者の関わり次第で大きく変わる！

## 「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成 26 年度調査）」 [結果の概要]

### 【本調査の概要】

国立青少年教育振興機構では、我が国の青少年の体験活動等の現状を把握するため、平成 18 年度より自然体験や生活体験等の実施状況や日々の生活習慣の実態、自立に関する意識等について全国規模の調査を実施しています。

平成 26 年度調査では、青少年の体験活動や生活習慣等の現状や経年変化に加え、家庭でのしつけや世帯収入及び子供にかかる教育費（学校外）、携帯電話・スマートフォンの利用状況等に注目し、青少年の体験活動や意識等との関係について分析を行いました。

### 【調査結果のポイント】

**ポイント①** 自然体験や生活体験、お手伝いといった体験が豊富な子供や、生活習慣が身についている子供ほど、自己肯定感や道徳観・正義感が高くなる傾向がある。

**ポイント②** 保護者がしつけに力を入れている家庭ほど、子供の自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がある。

**ポイント③** お手伝いをよくしている子供や、生活習慣が身についている子供は、携帯電話やスマートフォンが気になったり、操作することが少なくなる傾向がある。

**ポイント④** 子供にかかる教育費が高い家庭ほど、子供が自然体験を多くしている傾向がみられるが、生活体験やお手伝いと教育費にはほとんど関係がみられない。

これらのことから、子供の自己肯定感や道徳心など豊かな心をはぐくむためには、子供への関わりやしつけを通じて、生活体験やお手伝いといった日々の体験を充実させたり、規則正しい生活習慣を身につけさせることが大切だと考えられます。

### 【主な調査結果】

#### <青少年の体験活動や生活習慣と意識との関係>

**結果①** ・自然体験や生活体験、お手伝いなどの体験が豊富な子供や、生活習慣が身についている子供ほど、「今の自分が好きだ」「体力には自信がある」といった自己肯定感（p19）や、「家であいさつをすること」「友達が悪いことをしていたら、やめさせること」といった道徳観・正義感（p25）が高くなる傾向がみられる。

#### <子供へのしつけと青少年の意識等との関係>

**結果②** ・「夜ふかしをしないで早く寝ること」「毎朝、きちんと朝食を食べること」など、保護者がしつけに力を入れている家庭の子供ほど、自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がみられる（p42）。

#### <携帯電話・スマートフォンの利用状況等と青少年の体験活動や生活習慣との関係>

**結果③** ・買い物やそうじ、料理など家のお手伝いをよくしている子供や、あいさつや身の回りのことを自分でできる生活習慣が身についている子供ほど、スマートフォンが気になったり、操作することが少なくなる傾向がみられる（p31）。

#### <子供にかかる教育費と青少年の体験活動や意識等との関係>

**結果④** ・子供にかかる教育費が高い家庭ほど、子供が自然体験を多くしている傾向がみられるが、生活体験やお手伝いと教育費にはほとんど関係がみられない（p39）。

・教育費が高い家庭ほど、子供の自己肯定感や道徳観・正義感等が高くなる傾向がみられる（p40）。

# 調査結果の概要

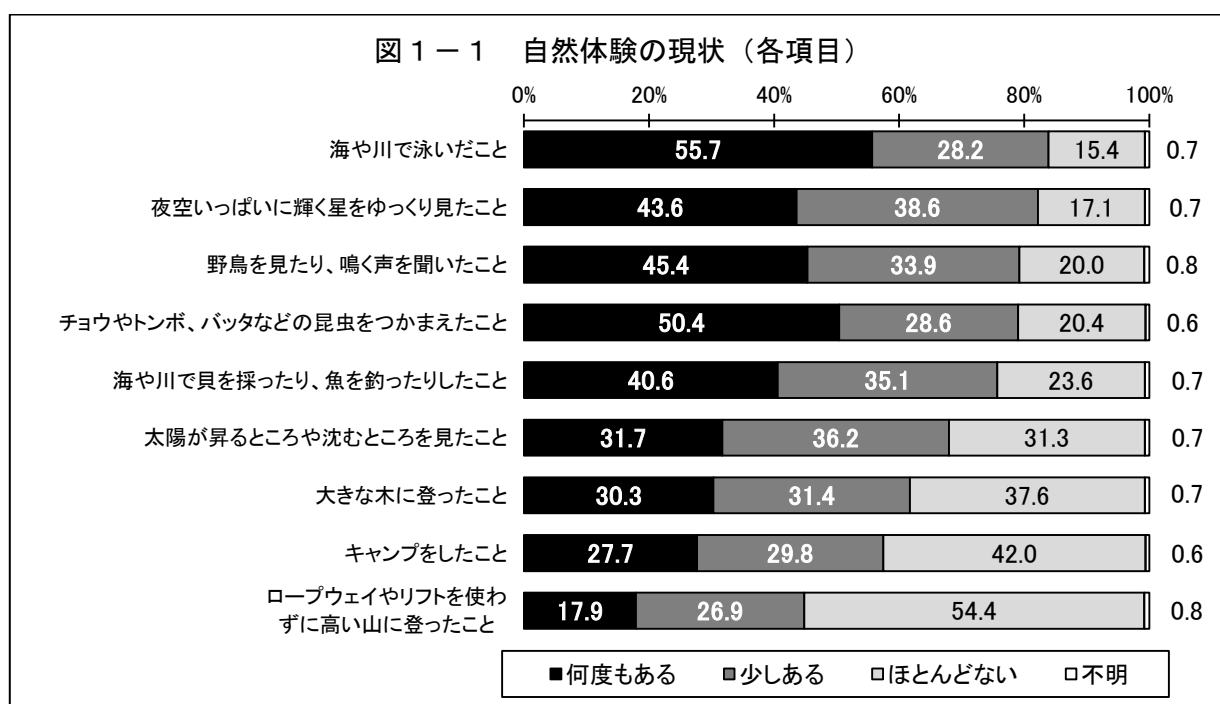
## 1. 青少年の体験活動等の現状

### (1) 自然体験

#### ① 自然体験の現状（小4～6、中2、高2）

以下の自然体験に関する項目に対して「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計をみると、「海や川で泳いだこと」（83.9%）が最も高く、次いで「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」（82.2%）や「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」（79.3%）となっている。

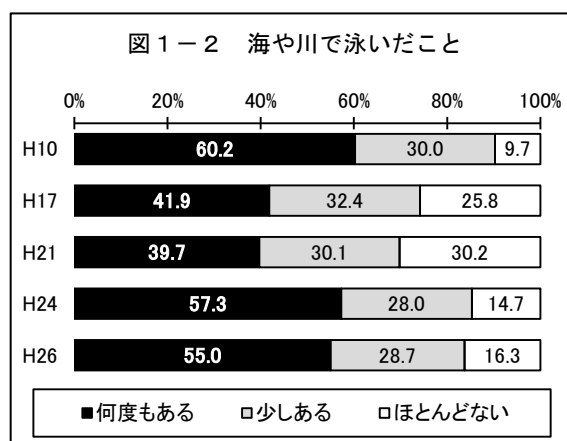
一方、他の自然体験に関する項目と比べて低かったものは、「キャンプをしたこと」（57.5%）や「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」（44.8%）となっている。

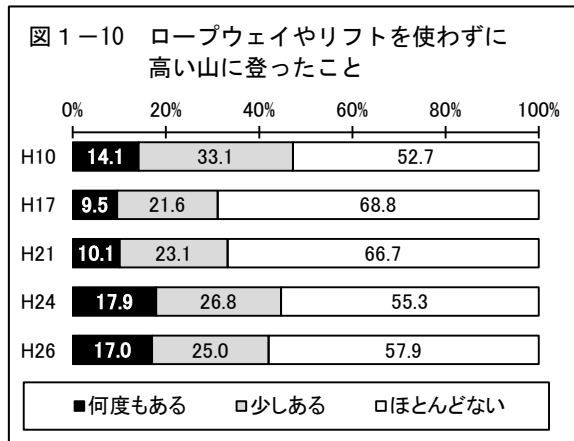
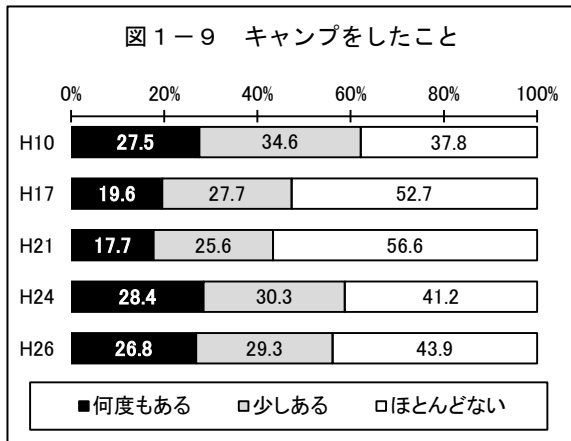
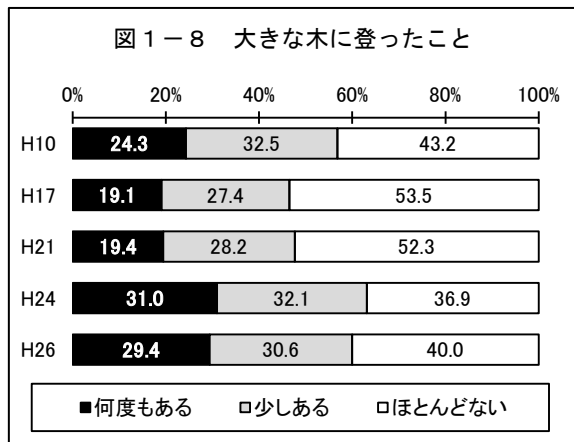
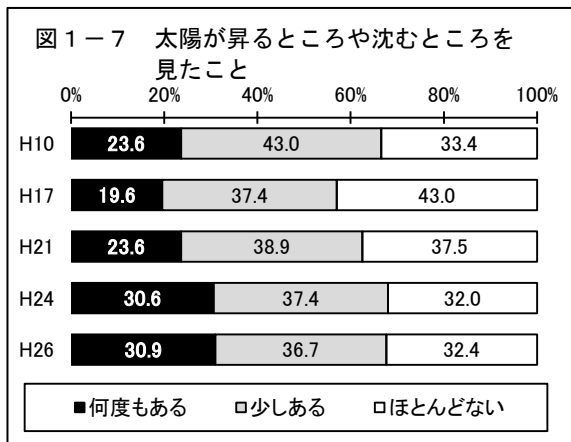
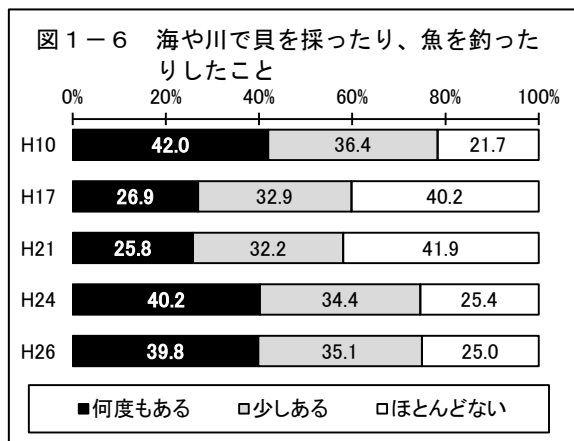
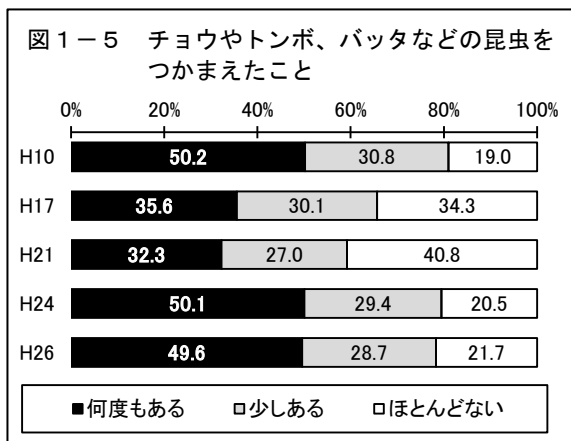
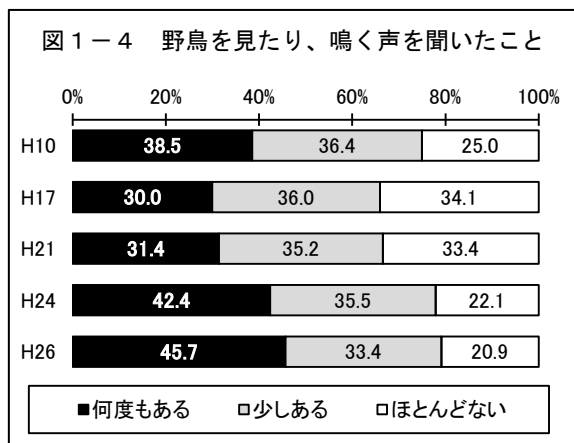
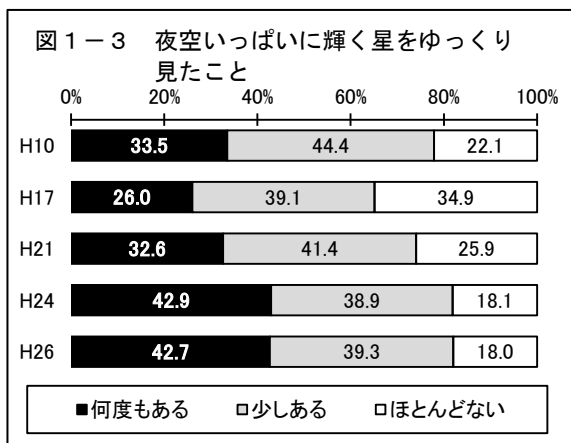


#### ② 自然体験の推移（小4、小6、中2）

自然体験の実施状況（「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」（H10:74.9%→H26:79.1%）や「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」（H10:77.9%→H26:82.0%）などの項目で増加傾向がみられる。

なお、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」の実施状況をみると、平成10年度調査以降すべての調査で5割以下となっている。



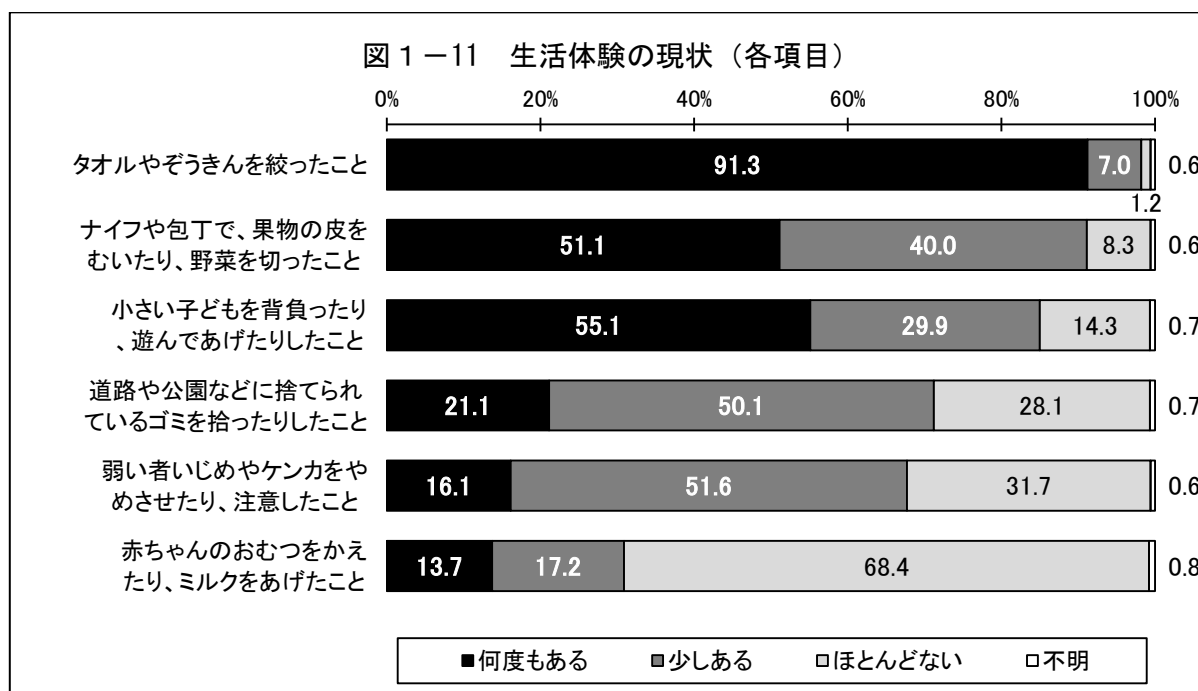


## (2) 生活体験

### ① 生活体験の現状（小4～6、中2、高2）

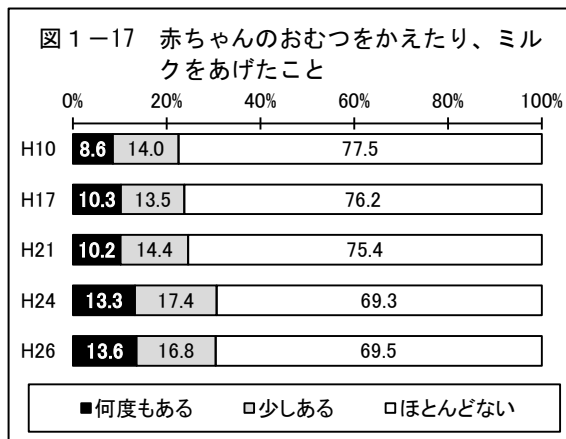
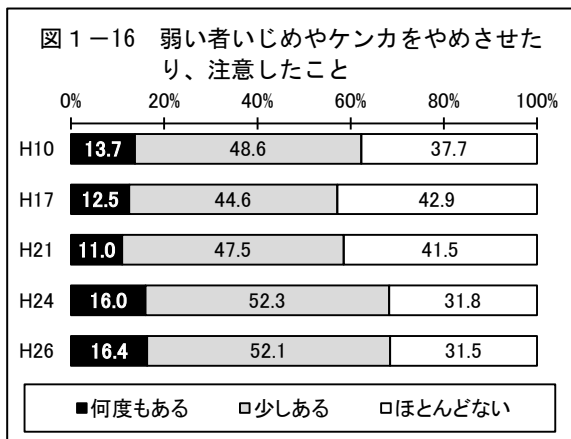
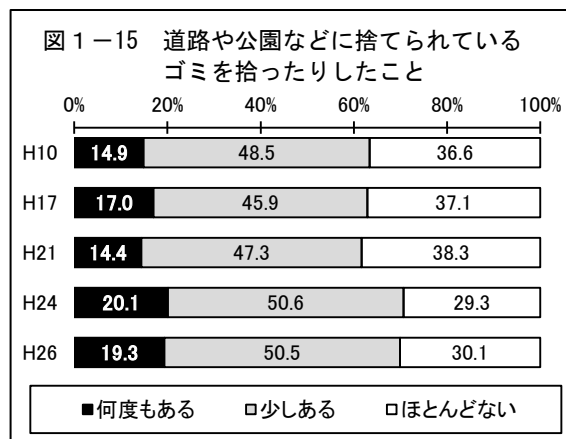
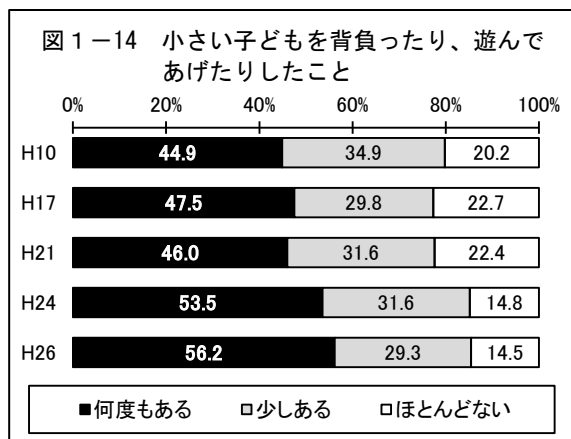
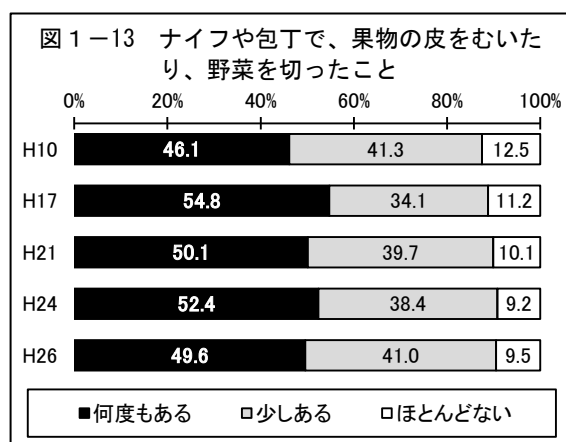
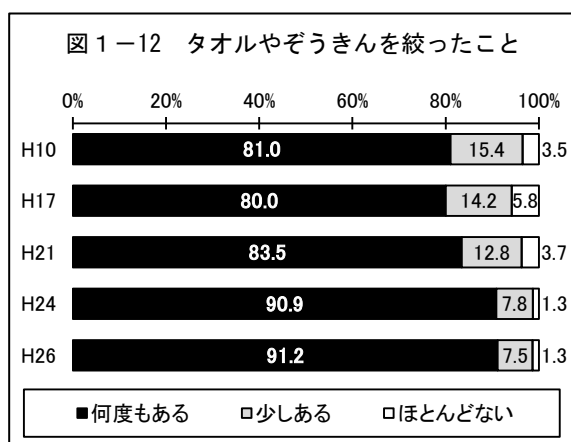
以下の生活体験に関する項目に対して「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計をみると、「タオルやぞうきんを絞ったこと」（98.3%）が最も高く、次いで「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」（91.1%）や「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」（85.0%）となっている。

一方、他の生活体験に関する項目と比べて低かったものは、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」（30.9%）で3割程度となっている。



## ② 生活体験の推移（小4、小6、中2）

生活体験の実施状況（「何度もある」「少しある」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、すべての生活体験で増加傾向がみられるが、中でも「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」（H10:22.6%→H26:30.4%）や「道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと」（H10:63.4%→H26:69.8%）、「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」（H10:62.3%→H26:68.5%）で増加傾向がみられる。

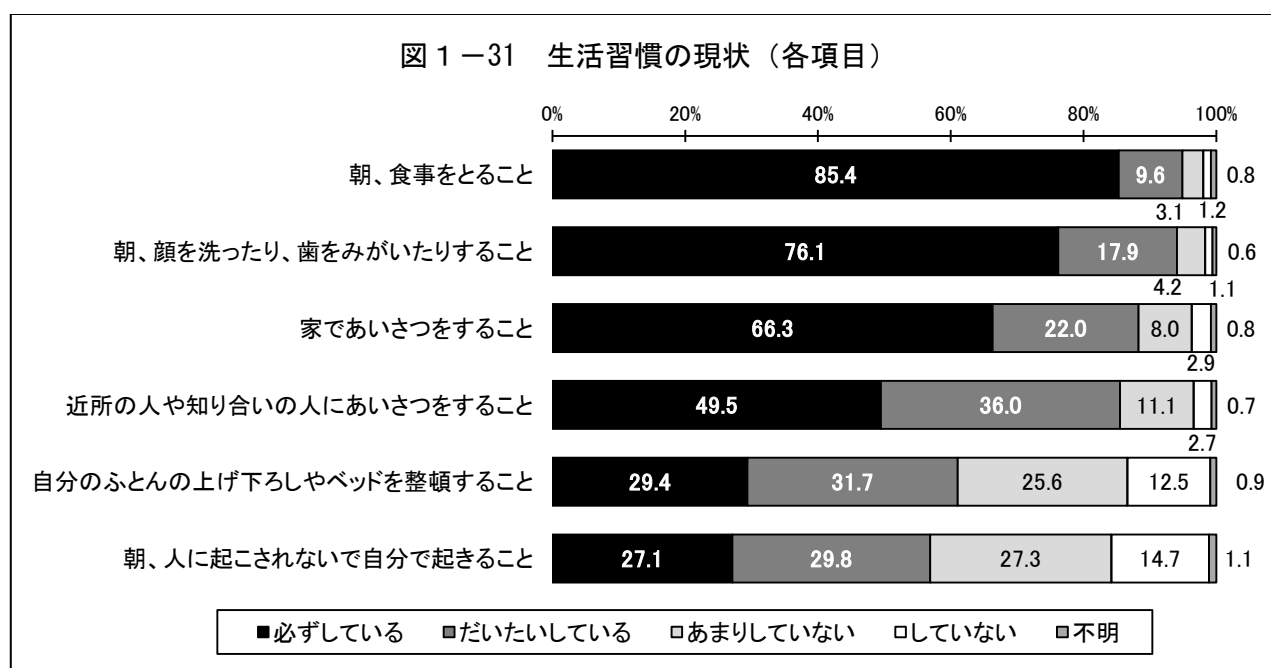


#### (4) 生活習慣

##### ① 生活習慣の現状（小4～6、中2、高2）

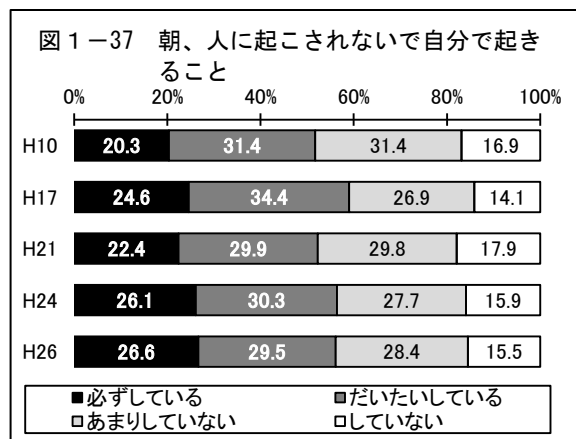
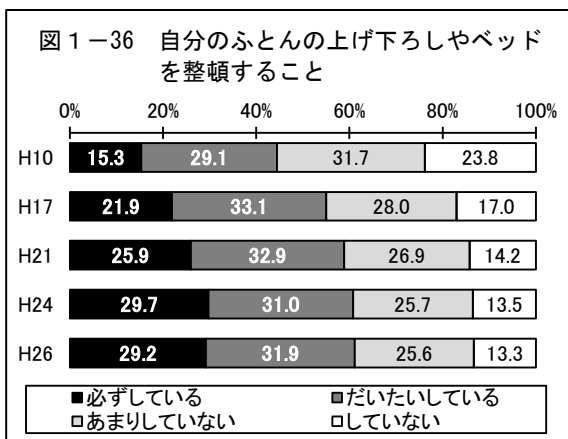
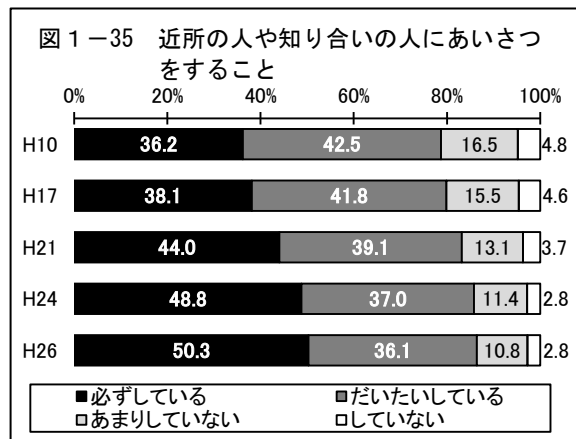
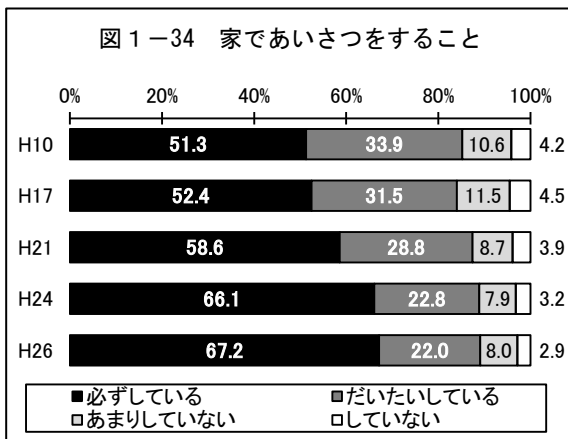
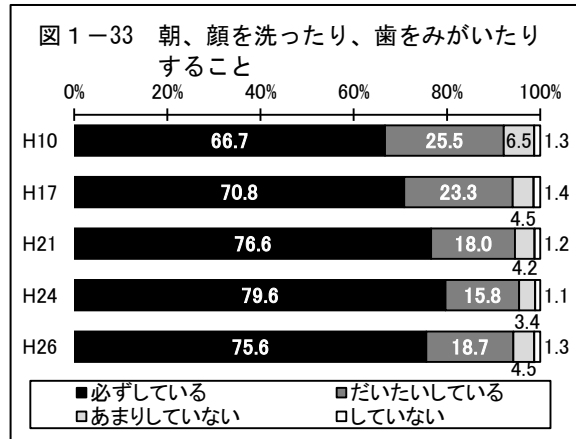
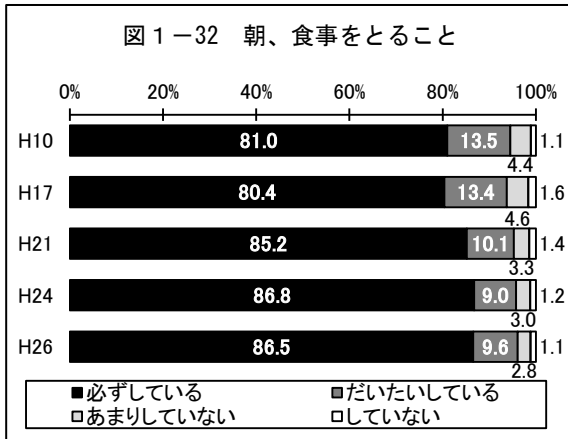
以下の生活習慣に関する項目に対して「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計をみると、「朝、食事をとること」(95.0%)が最も多く、次いで「朝、顔を洗ったり、歯をみがいたりすること」(94.0%)や「家であいさつをすること」(88.3%)となっている。

一方、他の生活習慣に関する項目と比べて低かったものは、「自分でふとんの上げ下ろしやベッドを整頓すること」(61.1%)や「朝、人に起こされなくて自分で起きること」(56.9%)となっている。



② 生活習慣の推移（小4、小6、中2）

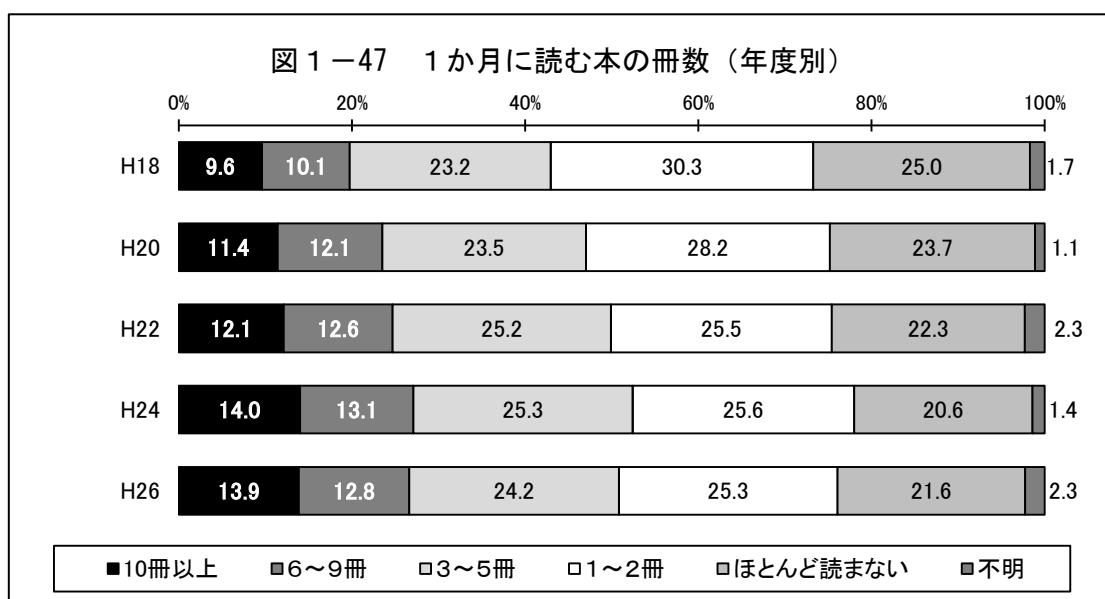
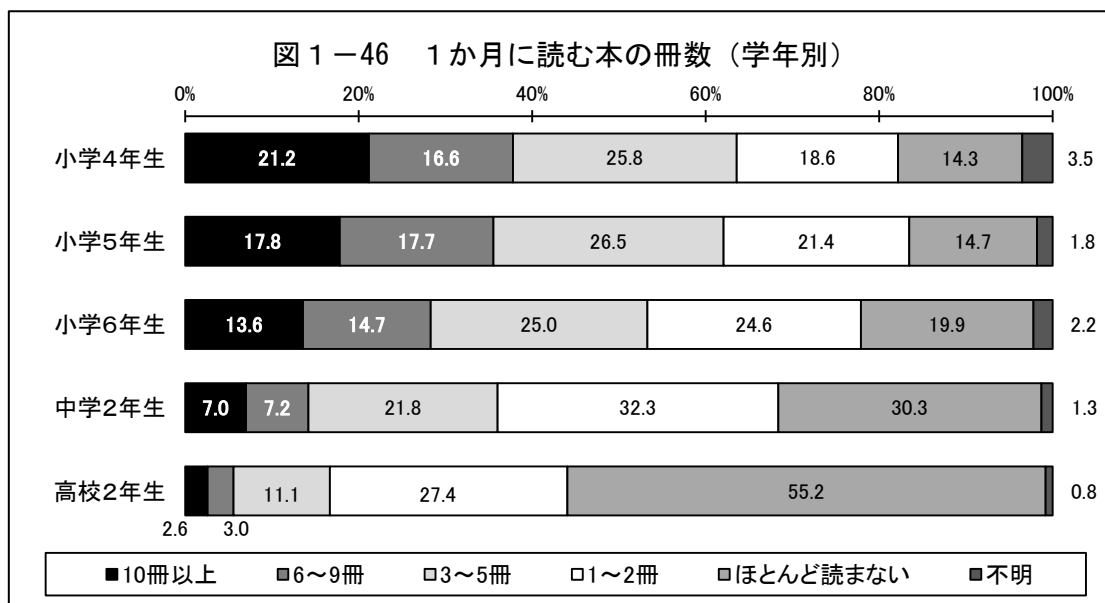
生活習慣の実施状況（「必ずしている」「だいたいしている」と答えた者の割合の合計）を平成10年度調査と比較すると、「自分でふとんの上げ下ろしやベッドを整頓すること」（H10:44.4%→H26:61.1%）や「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」（H10:78.7%→H26:86.4%）、「朝、人に起こされなくて自分で起きること」（H10:51.7%→H26:56.1%）などすべての項目で増加傾向がみられる。



⑤ 読書活動の現状と推移（小4～6、中2、高2）

1か月に読む本の冊数を学年別にみると、学年が上がるにつれて読む本の冊数は減少し、高校生になると「ほとんど読まない」（55.2%）と回答した割合が5割以上になっている。

1か月に読む本の冊数を平成18年度調査から比較したところ、多少の増減はあるものの、平成18年度から平成26年度にかけてゆるやかな増加傾向がみられる。





## 2. 青少年の意識等の現状

### (1) 自己肯定感

#### ① 自己肯定感の現状（小4～6、中2、高2）

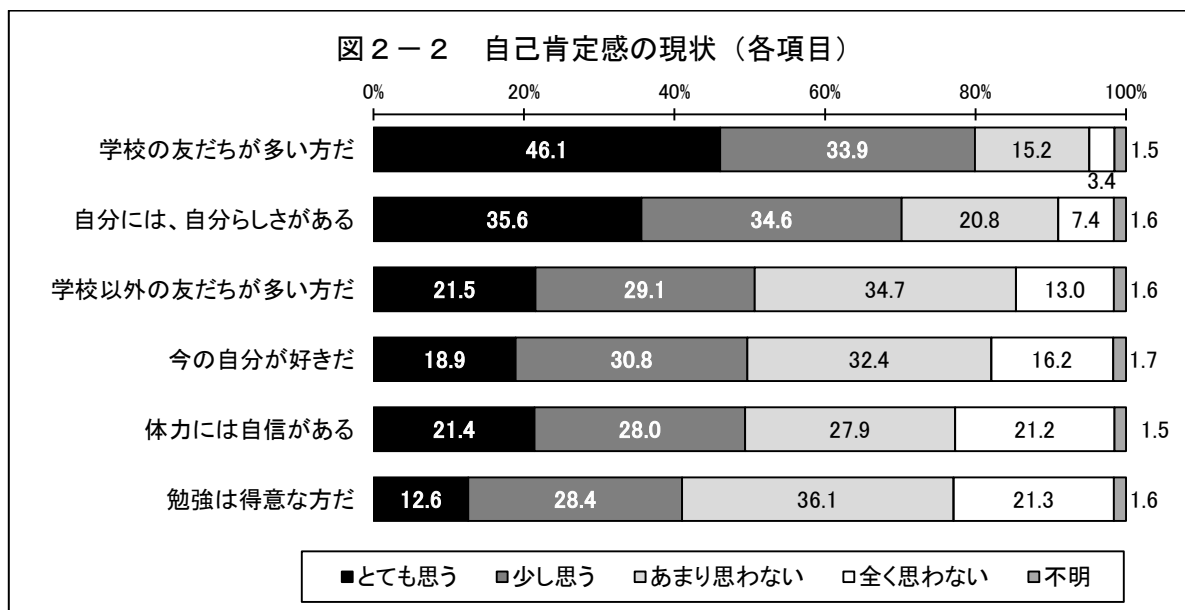
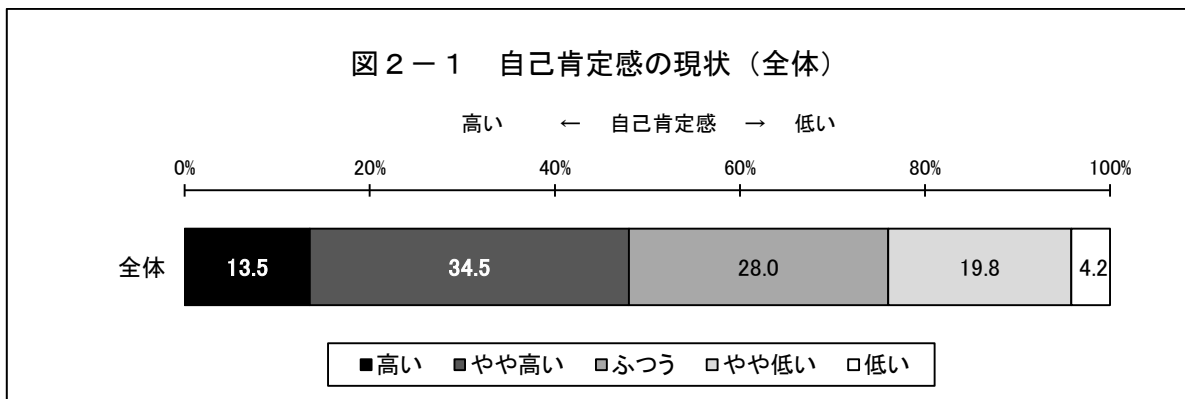
<全体>

自己肯定感の現状や推移を把握するため、自己肯定感の各項目を得点化し、「多い」から「少ない」までの5つに分類して集計を行った。

青少年の自己肯定感の全体的な傾向をみると、自己肯定感が「高い」「やや高い」の割合の合計（48.0%）は5割程度となっている。

自己肯定感に関する項目に対して「とても思う」「少し思う」と答えた者の割合の合計をみると、「学校の友だちが多い方だ」（80.0%）が最も高く、次いで「自分には、自分らしさがある」（70.2%）や「学校以外の友だちが多い方だ」（50.6%）となっている。

一方、他の自己肯定感に関する項目と比べて低かったものは「勉強は得意な方だ」（41.0%）となっている。



自己肯定感：自己肯定感に関する6項目を得点化（「とても思う」を1点、「少し思う」を2点、「あまり思わない」を3点、「全く思わない」を4点）し、各質問項目得点の合計を項目数で割ったものを平均点とし、これを「高い」「やや高い」「ふつう」「やや低い」「低い」の5段階に分類した。ただし、自己肯定感に関する質問項目のうち「体力には自信がある」は平成24年度調査から追加した項目であるため、経年の比較を行う際には除外して集計している。